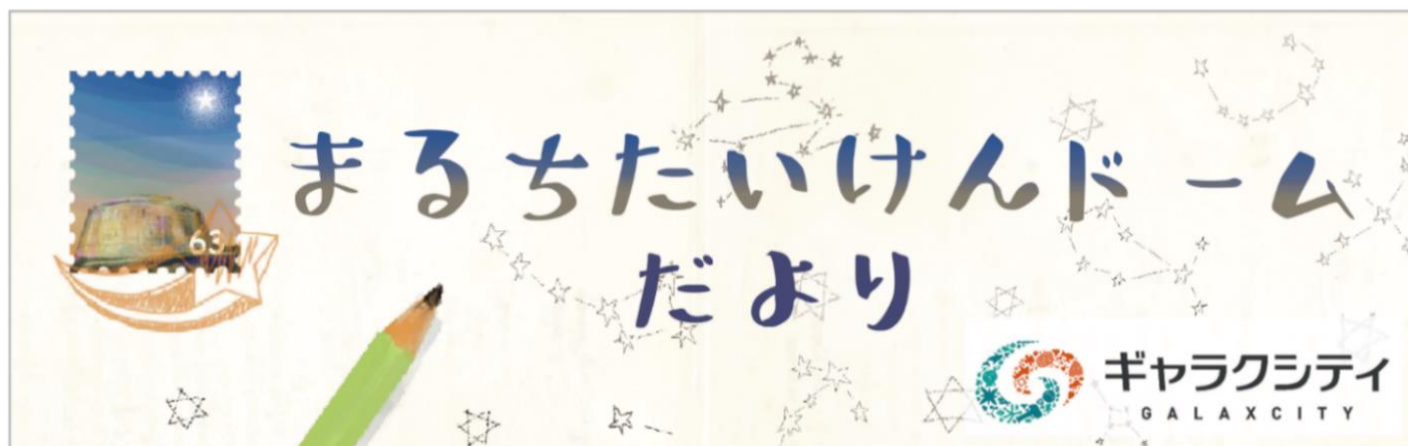




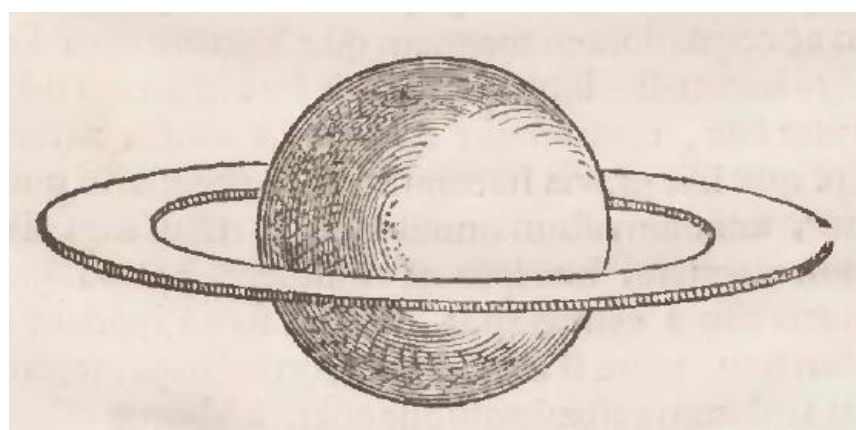
土星の環の怪（その1）

土星の環（リング）は、「全^き天^{かん}一の奇観」とか、「太^た陽^{から}系の宝」とか形容されます。他に類^{るい}を見ないほど^{そうだい}壮大で美しい^{なが}眺めというわけです。最初に望遠鏡で土星を見たのは、ガリレオ・ガリレイです。ガリレオの望遠鏡は性能が悪く、環を認識することはできず、本体の両側に耳が付いた形をしていると記しています。

科学史の本を見ると、「環の発見者はオランダのクリスチャン・ホイヘンスである。」と記されています。ホイヘンスは自作の望遠鏡で1655年に初めて土星^{かんそく}を観測します。それを1610年以降の観測記録と突き合わせ、「土星の環は板のようなもので、土星の公転周期^{こうてんしゅうき}（29年）で傾^{かたむ}いたり元に戻ったりしている。」ことを確信^{かくしん}しました。ところが、そのことをすぐには公表^{こうひょう}せず、1656年にアナグラム

にして発表しました。アナグラムとは、かつて用いられた、一種の暗号文^{あんごうぶん}ですが、解読^{かいどく}はほとんど不可能です。なぜそのようなことをしたのか不明です。誰かが同じことを言いだしても、自分が最初に見つけたのだと主張したかったのでしょう。自らもその後30年以上にわたって観測を続け自説の正しさを証明しました。

これらのことが功^{こう}を奏^{そう}して、現代の科学史の教科書には「土星の環の発見者はクリスチャン・ホイヘンス」と記されています。



クリスチャンホイヘンス著（1659年）Systema Saturnium
に記された土星の環の模式図。

ホイヘンスは環は厚みのある板のようなものと考えました。